

P19

受診時主訴とする患者の実態調査
…当医院における問診票ツールの試み

○酒本 智映、劉 中憲、蓑原 歩
(パンダ小児歯科)

[目的]

現在、歯科医院を訪れる患者の主訴はむし歯だけでなく、歯肉炎・口臭・歯並びなど様々である。そこで当医院では問診票を作成し来院した患者を対象に主訴について調査し、知見を得たので報告する。

[対象および項目]

対象：平成23年4月～6月の間に某小児歯科に来院した0歳～15歳までの患者87名(男53名・女34名；平均年齢5.5才)である。保護者に主旨を説明し、同意を得られた者を対象に調査を行なった。

項目：1)歯の痛み・むし歯、2)歯茎の痛み・腫れ、3)健診で受診を勧められた、4)悪い所がないか健診希望、5)歯並び、6)口臭、7)むし歯の予防(フッ素塗布・歯磨き指導など)、8)その他(お口のクリーニング・ホワイトニング)である。

[結果]

問診票の結果から受診理由についてはむし歯の予防が最も多く28.5%を占め、次いで歯科健診の際に受診を勧められたのが17.8%であった。他の項目については、歯の痛み・むし歯が16.7%、悪い所がないか検診希望12.5%、歯並び8.1%、歯茎の痛み・腫れ1.6%、口臭0.9%、その他13.3%との調査結果が得られた。

[考察]

これらのことから、早期にむし歯の予防を希望する保護者の意識が高まってきており、市の乳幼児歯科保健事業の1歳半健診及び、3歳児健診、学校や保育園などの歯科健診が歯科受診のきっかけとなり、早期発見、早期治療につながることがうかがえる。また、小児歯科の歯科衛生士は、患者の各成長発育段階において、その特徴を配慮しながら、患者・保護者の主訴や希望などを的確に捉え、それに即した対応をしなければいけない。

P20

プーケット島における小学校および障害者施設の歯科ボランティアで使用した指導用ツール

○入木田美雪¹⁾、若松美咲¹⁾、浜田作光²⁾
宮川尚之¹⁾

1) みやかわ小児矯正歯科 (霧島市)

2) 神奈川歯科大学南東アジア支援団

【目的】 私たちは平成23年3月に神奈川歯科大学南東アジア支援団 Phuket 予防事業に参加し、プーケット島のラワイ小学校で歯科ボランティアを行なった。海外で指導を行う場合、視覚的コミュニケーションを中心とした指導用ツールが必要とされるため、その開発が本研究の目的である。

【方法】 指導対象となる小学校の12歳児DMFは3.4と非常に高い数値を示している。

これまでのボランティアの成果で食後のブラッシング習慣は確立しているが、テクニックは指導されていない。ツールに必要とされる条件は、ブラッシングテクニックを視覚的に解説出来る事、使用言語はタイ語である事、指導部位は上下顎前歯部および第一大臼歯部の清掃方法である事、児童の歯垢染め出しが可能である事があげられた。

【結果】 A4サイズ4枚のパネルが完成した
パネル1：歯垢の残りやすい部位を示す

パネル2：歯ブラシを正しく当てている写真

パネル3：第一大臼歯部を示した図

パネル4：第一大臼歯部の磨き方を示した図
それぞれにタイ語で簡単な解説がついている。

【考察】 言葉が通じない状況でのブラッシング指導は、低年齢児や自閉傾向の子どもに対する指導と同様と考え、ツールの作成を行なった。指導はツールを使用する事でスムーズに行なう事ができたが、子どもたちの誘導には言葉のコミュニケーションが必要となつた。集団指導での使用についてさらに改善を行い、海外での指導だけでなく、保育園、幼稚園での指導や特別支援学校での指導にも生かせる指導用ツールを開発していきたい。

【文献】 絵カードを使った障害者歯科診療、緒方克也編著 医歯薬出版 2008 東京